

派遣報告書

平成28年3月31日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会

(代表) 議員 米田勝彦



次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

1 派遣期間

■平成28年3月25日(金)から平成28年3月26日(土)まで

2 派遣先

■経済産業省 3月25日(金) 11:00~12:00
■文部科学省 3月25日(金) 13:30~14:10
■内閣府 3月25日(金) 14:30~15:30
■ドローン展示会 3月26日(土) 11:00~14:00

3 視察(調査)議員名

■米田 勝彦

4 面会者

■経済産業省 ・製造産業局 産業機械課 ロボット政策室
室長補佐 平田卓也 氏
■文部科学省 ・初等中等教育局 初等中等教育企画課
教育制度改革室 室長補佐 武藤久慶 氏
■内閣府 ・地方創生推進室
次長(国家戦略特区担当) 藤原 豊 氏
・地方創生推進室
参事官補佐(国家戦略特区企画担当) 杉田香子 氏
■ドローン展示会 ・株式会社シーズプロジェクト
・Terra Drone株式会社
・その他、多数のドローン機器の展示ブースを訪問。

5 派遣目的

■経済産業省 ・ロボット産業による地方創生について
■文部科学省 ・人口減少社会における学校再編の必要性について
■内閣府 ・地方創生にドローンが果たす役割について
■ドローン展示会 ・ドローン機器の現状について

6 視察の経過及び感想

■別紙「行政視察調査報告書」

7 添付書類

■面会者名刺(写し)
■視察先提供資料(概要)

要した経費：1人合計 72,400円

平成28年3月25日(11:00～12:00 経済産業省

ロボット産業による地方創生について

経産省担当者の説明概要 ※ 資料別紙

- 日本は、ロボット大国ですが、欧米、中国が追いついてきています
- 引き続き、世界をリードしていくために、ロボット革命を実現します
- ロボット革命とは、私達の暮らしのあらゆる場面において、ロボットが関わることを意味します。
- 中小企業、農業、介護、インフラ等、様々な分野において、現場のニーズを把握しながら世界一のロボット利活用社会を実現し、地方創生に取り組んでいきたいと考えています。



同日 13:30～14:10 文部科学省

人口減少社会における学校再編の必要性について

文科省の担当者の説明は、次のとおりです。 ※ 資料別紙

- 基本的な考え方は、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」で既に示しています。
- 本手引書を作成した者の一人としての思いは、最後の頁の「おわりに」の項で示しています。何が何でも再編とは考えていません。また、強制するような権限は、国にはありません。
- 学校を、統合する、しない、いずれを選択されるにしても、基本は「こどものために」だと考えています。



同日 14:30～15:30 内閣府 (永田町合同庁舎)

地方創生にドローンが果たす役割について

説明を受けての感想 ※ 資料別紙

- 政府は、ロボット産業を成長戦略の一つに考えており、なかでもドローンには、大きな期待を寄せています。
- drone とは、ハチの羽根の音を意味しますが、基本的には、飛行ロボットの通称です。
- 説明を受け、石炭や石油を動力とする産業が私たちの生活を変えてきたように、ドローンを利活用した産業が、今また私たちの生活を近い将来大きく変えようとしている、という感想を持ちました。



平成28年3月26日(11:00～14:00 幕張メッセ

ドローン機器の現状について

※ 資料別紙

- 展示会は三日間でその内、一般公開は26(土)でした。
- 118社、その他団体が出展し、経済産業省及び内閣府も説明ブースを設けていました。
- 国の取組みに呼応すべく様々な用途を持った機器が出品されていました。
- 静岡市の事業者の出品でしたが、この事業者の音頭で、地元事業所30社と共同でドローンを作っている、とのことでした。
- 配達用、警備用、測量用等、平和利用が基本ですが、歴史的な観点からすれば、軍事利用も同時進行だろう、という感想を持ちました。

